学力テスト…子どもの姿は一つではない

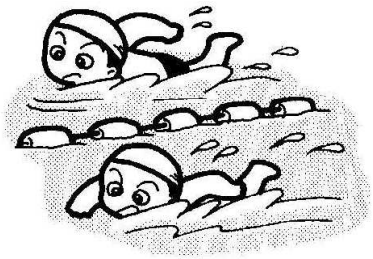
以前ほどではありませんが，学力テストの結果についてマスコミはまだ取り上げています。新聞によると全国と比較して本県がトップレベルだそうです。しかし，報道はここで満足しません。隣県がもっと高いそうです。つまり「もっとがんばれ！」ということのようです。

正直言って，学校現場は複雑な感想をもっています。「がんばっていない学校」があるのならがんばってもらうしかないと思います。しかし，がんばっているのかいないのかを調査の平均点だけで見てしまうことには疑問を感じます。

自分をふりかえって考えれば，学力という物差しで評価されたのは５９年間の人生の中で在学中だけです。小学校入学から大学卒業までの１６年間だけです。残りの４３年間はその時期に応じた全く異なる観点で自らを規制したり，鍛錬したり，その結果を評価されたりしてきました。

私は授業以外の課外の活動に大きな子どもの成長の姿を見ることがあります。そこには，ペーパーで評価される学力以外の子どもの全くちがった姿をいっぱい見ることができます。それは部活動であったり，学校行事であったり，少年の主張大会であったり，職場体験であったりします。

先日行われた新人大会の水泳では，大会新記録を出した選手が大げさなガッツポーズをすることもなくコーチと目線だけで喜びを認め合う光景に新鮮な感動がありました。バスケットでは反則を犯した選手の頭を軽くぽんとたたくチームメイトの姿に固い結束が感じられました。ヘッドスライディングして顔もユニホームも真っ黒になった野球部選手に心から拍手を送りました。



私は，本校の生徒には限られた３年間の中でどれだけの感動を体験させられるかをテーマにしたいと考えています。そのためには当然授業への集中は欠かせません。そして，課外の活動も同じ程度に大事なのです。どちらかに偏ることなく，子どものもつ姿を『一つの側面』ととらえて応援したり，励ましたりしていきたいと考えています。

学校の教育活動のどれをとってもご家庭の支援は欠かせません。ご協力をお願いいたします。蛇足ですが，子どもの前で教師批判をしても子どもの成長には何の効果もありません。この点もご協力をお願いします。